

授業の具体的展開例

前時の学習を使って考える。

- T: この図から、みかんのねだんを求めます。
式はどうなりますか。
- C: 23×30 です。
- C: 筆算で、 23×3 をしてから、10倍しました。
- T: みかん3つ分を出してから、10こ分を出しました。(具体物を提示)これが、690円でした。
みんなで読んでみましょう。(机間指導)
式は、どうなりますか。
- C: 23×34 です。
- T: 今日のめあては
- 全: 23×34 の計算の仕方を考えよう。
- T: 前の時間とちがうところはどこですか。
- C: 34こ 4こふえた。
- T: 1このねだんは変わっていますか。
- C: 同じです。
- T: 何円になるかを考えていきましょう。

自力解決

考え方を発表してください。

- C: まず、 $23 \times 4 = 92$ と $23 \times 30 = 690$
を計算してから $92 + 690 = 782$ とします。
- T: 23×4 は、みかん4つ分を計算しているのですね。つまり、 $23 \times 34 = 782$
答え782円になりました。この3つの式をまとめて、筆算にします。
- T: この計算は何ですか。
- C: 23×4 23×30 23×4 と 23×30 の式を合わせた答えです。
- T: 3つの式が入っていますね。いっしょに書きましょう。

教師と児童一緒に、筆算を完成させていく。

教材・教具

○みかん (図、実物)



○筆算用ホワイトボード

HOME

板書例は
こちら

CLICK

単元の流れへ

本時の流れへ

評価問題

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時で、「活用」する力が求められるのは、2位数×何十の計算の仕方を、2位数×2位数の計算に生かす場面である。

そのため、23円のみかんが30個分の代金を求めた前時の学習から、4個だけみかんが増えることに注目させ、 23×4 を計算すればいいことに気付かせるような導入が必要である。

そこで、本時では、みかんの実物を使い、袋に入った30個のみかんに、4個のみかんを1つずつ加えていく作業を児童の前でやってみせる。代金は「23円、23円、…」と増えていく。4つ出し終えた時点で、「23円が4つ分だね。」と確認することで、かけ算によって4つ分の値段が求められるという意識付けができると考えられる。

こうした見通しを持つ場面を経て、児童が、「 $23 \times 4 = 92$ 、 $23 \times 30 = 690$ 、 $92 + 690 = 782$ 」という3つの式を導き出せるかを評価していきたい。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時のねらいは、筆算の定着にある。それぞれの部分積が、どの計算の積を表しているかを理解することで、筆算の仕方が定着しやすくなると考えられる。部分積の意味を理解できているかを判断するために、

- ①前時の学習を使うことで、増えた4個分だけ計算すればいいことに気付いているか。
 - ②34を30と4に分け、それぞれを計算して足すという3つの式を出すことができるか。
 - ③筆算の答え合わせの度に、計算の仕方や部分積の意味を、説明することができるか。
- という3つの視点を大切にしたい。

